

施策評価調書(5年度実績)

| | | | | | | | | |
|------|-----|-----------------|-------|---------|---------|--|---------|----|
| | | | | 施策コード | Ⅱ-2-(5) | | | |
| 政策体系 | 施策名 | 多様で厚みのある産業集積の深化 | 所管部局名 | 商工観光労働部 | | | 長期総合計画頁 | 93 |
| | 政策名 | 活力と変革を創出する産業の振興 | 関係部局名 | 商工観光労働部 | | | | |

【Ⅰ. 主な取り組み】

| | | | |
|-------|----------------------------------|-------------------|------------|
| 取組No. | ① | ② | ③ |
| 取組項目 | 大企業や研究機関等の活用による 新たなイノベーションの創出 | 本県産業の基盤となる産業集積の推進 | 次代を担う産業の育成 |

【Ⅱ. 目標指標】

| | 指 標 | 関連する 取組No. | 基準値 | | 5年度 | | | 6年度 | 目標達成度(%) | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------------------------------|---------------|-----|--------|----------------|----------------|-------|----------------|----------|----|----|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | 年度 | 基準値 | 目標値 | 実績値 | 達成度 | 目標値 | 25 | 50 | 75 | 100 | 125 | | | | | | | |
| i | 中小製造業の製造品出荷額(億円) | ① | H25 | 11,731 | 13,817 (R3) | 13,191 (R3) | 95.5% | 14,375 (R5) | | | | | | | | | | | | |
| ii | 食品出荷額(億円) | ② | H25 | 2,719 | 3,198 (R3) | 2,777 (R3) | 86.8% | 3,327 (R5) | | | | | | | | | | | | |
| iii | 医療機器製造業登録事業所・製造販売許可事業者数 (件・累計) | ③ | H30 | 31 | 38 | 25 | 65.8% | 40 | | | | | | | | | | | | |

【Ⅲ. 指標による評価】

| 評価 | 理 由 等 | | 平均評価 |
|-----|------------|---|-----------|
| i | 概ね 達成 | 石油・石炭、鉄鋼、木材など15業種において、製造品出荷額等が増加したことにより、目標値を概ね達成した。なお、実績値には経済産業省令和4年経済構造実態調査(R3実績値)を記載している。 | 達成 不十分 |
| ii | 達成 不十分 | 新型コロナウイルス等の影響を受け、製造品出荷額等の実績値が低迷したことにより、目標値の達成が不十分となった。なお、実績値には令和4年経済構造実態調査(R3実績値)を記載している。 | |
| iii | 著しく 不十分 | 複数の製造業登録事業所を保有する企業による製造拠点集約等により目標値を達成できなかった。 | |

【IV. 指標以外の観点からの評価】

| 取組 No. | 指標以外の観点からの評価 |
|--------|---|
| ① | ・産業科学技術センターと県内企業で共同開発したドローンの飛行性能を安全に評価・検査できる「ドローンアナライザー」を機体認証制度で活用すべく、ドローンアナライザーを用いた試験方法の開発を行った。 |
| ② | ・大分コンビナートの2030年、2050年の変革の姿を産学官で議論し、「グリーン・コンビナートおおい推進構想」として取りまとめた。 ・半導体関連産業では、企業の技術開発や大学・高専と連携した研究事業を支援したほか、現役技術者による学校現場等での講座を実施した。また、台湾企業との商談会や岩手県との半導体関連協定の締結等に取り組んだ。 ・自動車関連産業では、生産現場におけるチームリーダー育成に向けたセミナー等を実施したほか、電動化参入等を支援すべく試作開発補助等に取り組んだ。 ・食品関連産業では、商品開発や人材育成、販路開拓に向けた大規模展示会出展やHACCP講習による品質管理の高度化を支援した。 |
| ③ | ・大分県医療ロボット・機器産業協議会の活動を通し、県内企業によるおおい産医療関連機器の開発支援や医療・介護福祉従事者による機器評価を実施した。また、開発した製品の販路拡大のための医療機関・介護福祉施設への導入支援や国際展示会への共同出展に取り組んだ。 ・大分県エネルギー産業企業会の活動を通し、バス、トラックといった燃料電池商用車に関する実証事業を実施するとともに、次代を担う水素エネルギー産業の事業化に向けた支援や情報共有を図るため、企業会に設置した水素関連産業分科会において事例発表やマッチング、水素エネルギーの普及啓発イベントを実施した。 |

【V. 施策を構成する主要事業】

| 取組 No. | 事業名(5年度事業) | 事務事業評価 | |
|--------|---------------------|-------------|-----|
| | | 成果指標の達成率(%) | 掲載頁 |
| ① | ドローン産業振興事業 | 103.0 | 219 |
| ② | グリーン・コンビナートおおい創出事業 | 100.0 | 232 |
| | おおいLSIクラスター構想推進事業 | 257.1 | 232 |
| | ものづくり技術人材リスキリング研修事業 | 140.0 | 207 |
| | 自動車関連産業企業力向上事業 | 111.1 | 232 |
| ③ | 食品産業収益力向上支援事業 | 115.0 | 233 |
| | 医療関連機器産業振興事業 | 104.9 | 233 |
| | エネルギー関連産業成長促進事業 | 140.0 | 234 |

【VI. 施策に対する意見・提言】

| | |
|--|--|
| ○大分県新長期総合計画策定県民会議 第2回未来創造部会(R5.11) ・経済と環境の両立という観点では、カーボンニュートラルという新たな価値観を県民に広く意識付けし、理解醸成をしていく必要がある。コストがかかるカーボンニュートラルの需要を喚起し、企業はその需要を取り込んで供給していくといった好循環を生み出すことが重要である。 | ○第9回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(R5.8) ・大分県には医療系のものづくりの優秀な企業が集まっており、一社ではできることは限られるが、県単位でまとまると様々なニーズに応えられるのではないかと考えている。ぜひ県外や海外へアピールしていただきたい。 |
|--|--|

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

| 総合評価 | 施策展開の具体的内容 |
|------|---|
| B | ・大分コンビナートのカーボンニュートラルと持続的成長の両立に向けた「グリーン・コンビナートおおい推進構想」の実現を図るため、水素等の供給・利活用やカーボンリサイクルなどに関する企業間連携プロジェクトを支援するとともに、GX投資を積極的に呼び込むべく、民間主体の設備整備等に対し助成する。 ・半導体関連産業では、海外企業との取引拡大を支援するほか、新分野進出等に挑戦する地場企業への研究開発助成を講ずる。喫緊の課題である人材確保・育成に関しては、現役技術者による学校現場等での講座を継続実施するほか、九州半導体人材育成等コンソーシアムとも連携しながら、社員のリスキリングなどを支援する。 ・自動車関連産業では、電動化分野への参入促進に向けたセミナーや試作品開発等に対する助成事業を実施するほか、完成車メーカーと連携した技術人材の育成や事業開発をも担えるイノベーション人材の育成に取り組む。 ・食品産業では、商品等の需給マッチングや人材育成などに取り組むほか、海外展開に向けた越境ECへの参入やクラウドファンディングを活用した新商品開発を支援する。 ・医療関連機器産業では、大分大学医学部附属臨床医工学センターを中心として、企業と医療機関・介護福祉施設等との医工連携を支援するとともに、異業種からの新規参入促進のほか、県外・海外を含めた販路開拓まで一貫した伴走支援に取り組む。 ・地熱・温泉熱や小水力等本県の強みを活かしながら、引き続き県内におけるエコエネルギーの導入を進めていくとともに、水素に関する研究開発や水素エネルギーの利活用促進を支援していくことにより、水素サプライチェーン構築を目指していく。 |